

## 「江戸城へようこそ！」～ありし日の江戸城とその歴史を辿る～

2017年5月13日（土）実施 JGA 第一支部研修終了レポート

5月13日（土）9:30～12:20、日本城郭史学会会員の中澤伸矢氏を講師にお迎えし、JGA 主催による第一支部「江戸城」研修が開催されました。



当日はあいにくの空模様でしたが、遠くは大阪府、宮城県、熊本県から、総勢41名（JGA 正会員36名、非会員2名、運営委員2名、協力者1名）が参加しました。

9:30に大手門近くの和田倉噴水公園を出発し、大手門、下乗門跡、百人番所、中之門跡、中雀門跡、富士見櫓、天守閣跡、北桔橋門、北の丸公園へと歩き、清水門近くにて解散。

当時の登城のエピソードなど、講師の説明を聞きながら、資料の写真や図と現在の風景を見比べて、往時の江戸城に思いを馳せました。

中澤講師のお話では、太田道灌が築城した江戸城は石垣ではなく、土盛りの上に築城されており、今の日比谷、銀座、築地、日本橋は神田の台地を切り崩し、埋め立てて出来たとのこと。本丸の展望台に登ってかつての海岸線を想像することが出来ました。

また、天守は建てるのではなく「あげる」と言うのが正しく、江戸城に関しては家康があげた慶長度天守を秀忠が壊して元和度天守をあげ、さらに家光がそれを壊して寛永度天守をあげましたが、これが外壁銅板張りだったというのには驚きました。この寛永度天守が振袖火事で失われた後、前田綱紀によって天守台が新たに築かれましたが、保科正之の進言で天守の再建は中止となったとのこと。



最後に江戸時代の遺構として貴重な清水門を見る予定でしたが、次第に雨が激しさを増し、道が滑りやすく危険になったため、近くで説明のみとなりました。最後に質疑応答を設けました。激しい雨にも拘らず、熱心に質問が出され、参加者の熱意が感じられました。講師も丁寧に答えてくださいました。



その後、パレスサイドビルのアジアンダイニング「SAPANA」にて懇親会を開き、希望者は講師を囲んで楽しいひとときを過ごしました。

